



井原市の花 パンジー

井原市民病院だより

No.25

2013年9月発行

日本医療機能評価機構 病院機能評価Ver.6.0認定



旧病院施設
(昭和38年5月4日～平成13年3月)



新病院施設 (平成16年2月完成)

井原市民病院50周年記念

Ibara City Hospital

井原市立井原市民病院

〒715-0019 岡山県井原市井原町1186番地
TEL 0866-62-1133(代) FAX0866-62-1275(代)
E-mail byoin@city.ibara.okayama.jp

診療科目

内科・循環器内科・外科・整形外科・眼科・小児科
脳神経外科・放射線科・麻酔科・耳鼻咽喉科
リハビリテーション科・婦人科・泌尿器科・皮膚科

発行責任者：山田 信行

井原市民病院 創立 50 周年記念講演会 開会挨拶



院長 山田 信行

本日は、公私共々、大変お忙しい中をご臨席賜りまして、誠にありがとうございます。

今日、こうして創立 50 周年記念式典を開催できますことは、私達にとって、この上ない喜びでございます。かえりみますと、昭和 38 年 5 月 4 日に一般病床 100 床で開院して以来、昭和 41 年に 180 床に増床、平成 16 年に現在の病院に新築するとともに井笠地域リハビリテーション広域支援センターの認定を頂きました。その後、平成 20 年に電子カルテを稼働、平成 24 年に 365 日リハビリテーションと訪問看護センター「まいづる」の事業を開始し、今日に至っております。その間、医師不足をはじめとする幾多の困難を乗り越えてくることができましたのは、ひとえに地域住民の方々や今日で参列の皆様方の暖かいご支援とご協力、そして歴代の院長をはじめとする職員の皆様方の絶え間ない献身的な努力によるものと存じます。心から感謝申し上げますとともに深甚なる敬意を表する次第でございます。

病院 50 歳の節目に当たり、新たな決意表明をしたいと思えます。病院は地域のためにあります。地域に根差し、地域から必要不可欠とされ、地域からより愛される病院でなくてはなりません。この地域で求められている、予防から医療、介護まで幅広くカバーできる新しいステージの病院へと夢と希望をもって向かおうと思えます。次のステップに進むにあたり、特に 3 つのことを目指していきたいと思えます。先ず第一に慣習にとらわれないで周りの状況に応じて柔軟に自己変革できる組織づくり。次に、多様性を有する組織づくり。そして多職種精鋭チーム医療の醸成と実践です。地方の中小病院は今にも潰されそうな極めて厳しい時代を生きています。世の中の動きと要求を正確に読み解き、柔軟に対応しないと生き残れません。進化論者 Charles R. Darwin が述べたとされる、「強いものが生き残れるわけではない、賢いものが生き残れるわけでもない、変わるものだけが生き残る」ということを信じて行きたいと思えます。今後とも、より一層のご指導・ご鞭撻・ご支援を宜しくお願い申しあげまして、開会の挨拶と致します。ありがとうございます。



井原市民病院 創立 50 周年記念の会 式辞



井原市長 瀧本豊文

本日、井原市立井原市民病院創立50周年記念の会を開催するにあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

ご多用のなか、井原市民病院運営協議会の皆様、地元医師会の先生方、近隣の医療機関の皆様をはじめ、多くの方々にご臨席を賜り、心より厚くお礼申し上げます。

井原市民病院は、昭和38年5月4日に、岩野 郁造 初代院長のもと、七診療科・病床数100床で現在の地で診療を開始し、以来、今年で50周年を迎えました。

戦後、国において、医療基盤の整備と量的拡充に施策がとられ、都道府県や市町村が設置する公立病院については、医療水準の確保を図るため、その設置に要する費用に対して国庫補助が行われ、その後、経済の回復に加え、地方公共団体における病院建設機運が高まり、さらに、国民健康保険の充実も加わり、地域の医療ニーズに応えるべく、当井原市においても、市民病院建設の運びとなりました。

これまで、歴代院長をはじめ、山田信行 現院長のもと、診療科の充実、大型医療機器の整備充実、電子カルテシステム導入など医療のIT化を推進し、近隣の関連医療機関の皆様との連携強化に取り組んでまいりました。

平成16年2月には現在の新しい病院建物が完成し、現在では14診療科を標榜する地域の中核病院となりました。

また、平成24年には訪問看護、365日リハビリテーションを始めるなど、医療体制の更なる充実に、全職員が一丸となって努めているところでございます。

地域医療の充実は、市民の一番の願いであり、これまでの歩みを顧みますとき、諸先輩方、関係皆様方のご努力に深く敬意と感謝を表する次第であります。

ところで、現在、医療を取り巻く環境は誠に厳しいものがあり、特に、医師をはじめとする医療従事者の確保は、喫緊の課題であります。少子、高齢化社会が進むなか、地域医療の確保は、住民にとって一番身近で、かつ、関心の高い問題であります。

本日は、岡山済生会総合病院 名誉院長の糸島達也先生をお迎えして、「これからの地域医療について」と題してご講演を拝聴し、これからさらなる厳しい医療環境のなかで、市民病院がどうあるべきなのか、職員一同考えていきたいと存じます。

市民病院のビジョンである『いつでも安心してかけられる身近で愛される急性期病院』

また、ミッションである『地域住民の尊厳を守り、命を守り、健康増進を支援する』を果たし、地域住民の皆様のご信頼と期待に応えてまいりたい所存でございます。

最後になりましたが、本会の開催にあたり、ご協力賜りました関係者の皆様にご深く感謝申し上げますとともに、今後とも一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。式辞といたします。

井原市民病院創立 50 周年記念の会を開催

事務部長
野崎 正 広

井原市立井原市民病院 創立 50 周年記念の会 式次第

- 日 時：平成 25 年 7 月 7 日 (日)
場 所：3 階 リハビリテーション室
- 12:00 □ 受付開始
13:00 □ 創立 50 周年記念の会
式次第
- 一、開式のことば
 - 一、開会あいさつ
井原市立井原市民病院長 山田 信行
 - 一、式 辞 井原市長 瀧本 豊文
 - 一、来賓祝辞 井原市民病院運営協議会会長 森永 忠義
- 13:30 □ 記念講演会
演 題 『これからの地域医療について』
講 師 岡山済生会総合病院 名誉院長
岡山県医師会副会長
NPO 岡山医師研修支援機構理事長
岡山県地域医療支援センター長
糸島 達也先生
(座長 井原市立井原市民病院長 山田 信行)
- 15:00 □ 閉会あいさつ
井原市立井原市民病院 副院長 細羽 俊男



当日は、地元井原市医師会の先生方をはじめ、近隣及び県内医療機関の職員の皆様、また、当院運営協議会の委員、井原市職員の方々など総勢 107 名の出席をいただきました。

はじめに、山田 信行 院長より挨拶があり、これから将来に向かって病院として 3 つの決意を表明されました。続いて、瀧本 豊文 井原市長より式辞が述べられ、来賓代表として森永 忠義 井原市民病院運営協

議会会長からは、半世紀の永きにわたり市民の人々の大切な命を守る最良の病院を目指して、たゆまぬ努力と能力を英知され精進された先人と先輩の方々に敬意を表され、市民病院の理念である『地域に愛され信頼される病院を目指す』の『信頼』という言葉に市民病院の在り方のすべてが凝縮しており、「クオリティーの高い医療の提供と職員のあつい情熱をもって結果として市民の方々に愛される」このことが市民病院の使命であり、今後も市長、院長それぞれの立場でのトップリーダーのもと関係者一丸となって精力的に取り組まれ、さらに完成度の高い病院へと成長されることを願っているとのご祝辞をいただきました。



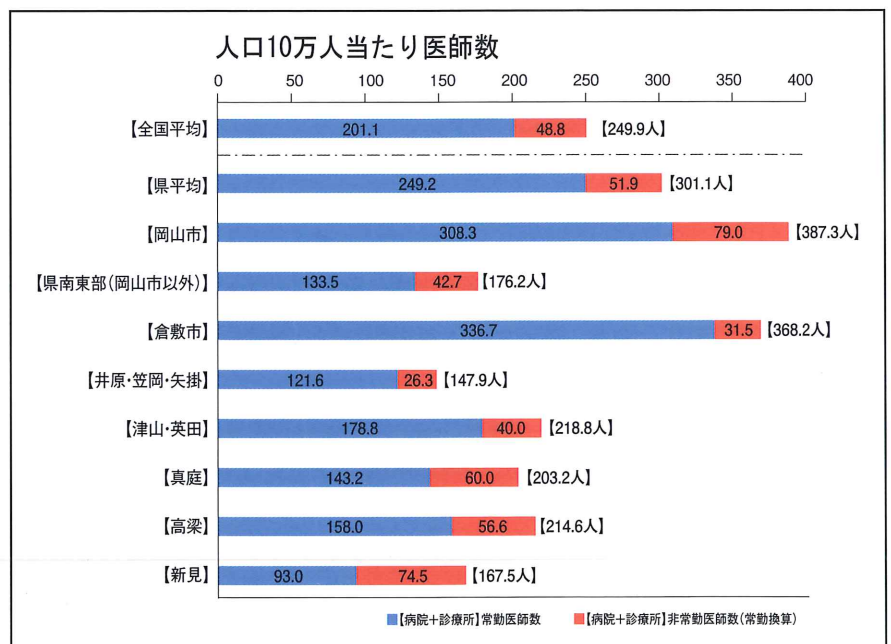
井原市民病院運営協議会会長
森永 忠義



岡山県地域医療支援センター長
糸島 達也

引き続き、記念講演を行い、講師に岡山済生会総合病院名誉院長、岡山県地域医療支援センター長、NPO 岡山医師研修支援機構理事長の 糸島 達也 先生をお迎えし『これからの地域医療について~井原市民病院の将来像~』と題してご講演をいただきました。

このなかで、糸島先生は、経験談として『どうすれば医師が地域に来てくれると思うか』との問いかけに対し、返ってくる回答は金銭的なことばかりであった。先生のお答えは、病院、市町村、医師会、地域住民をあげて歓迎する気持ち・心が重要ではないかと説かれました。



また、県南西部医療圏の医療費用と介護費用、年齢構成の将来予測について、需要は伸びるがその大部分が倉敷市の影響であり、常勤の医師数も倉敷市を除いて少ない状況にある。井原市における医療需要は、現在がピークで今後減少していくものと推測される。さらに、救急医療などは市外や県境を越えることが多く、広島県からは軽症は圏域で対応するよう言われている。こうしたなか、井原市における医療費は、推定で120億から130億円と試算できるが、市内での医療費は約50億円、残る約70億円が倉敷市や福山市などに流失している。自分たちの市にしっかりとした医療と介護があれば市民は幸せになり、県外・市外に流失している医療費を地域内で循環させることができ、企業誘致に匹敵するものと指摘されました。しかし、現状の単独では困難であり、地域で連携するのがよいのではないかと投げかけられました。

さらに、医師の確保は都市間競争であり、市長、医師会、病院長が協力し総合的な競争が必要であると提言されました。若い医師が集まる病院として、『専門医の資格が取得することができること』、『医師に魅力ある地域づくり』『市民活動が大事』であり、理想的には300床以上の規模で臨床研修病院の機能が必要である。また、医師数と医業収益の関係は相関しており、効率的な経営が期待されるとされました。

高齢者社会のなか、医療費、介護費、年金など国の社会保障費は、今後益々増加し10年後には約160兆円にまで増幅すると推測され、医療分野に何らかのしわ寄せはくると思われる。医療需要はあと30年あるとされているが、人口減少している市町村では減少苦しく横ばいとなる。井原圏域では前述のとおり福山、倉敷医療圏に流出している実態があり、国の方針として、医療の効率化が進められていくなか、地域・井笠地域で考えていかなければならないと訴えられ、再編成・ネットワーク化も一つの考え方と提言されました。

現在、医師、看護師等医療従事者の確保が困難な状況にあり、病院運営も大変厳しいものがありますが、地域医療を守るため、病院が果たすべき責務の大きさを痛感し、これからの医療制度改革の波に職員一丸となって乗り越え、井原市民の期待と信頼に応えるべき取り組んでいく決意を新たにいたしました。



事業管理実践者
黒瀬 康平

井原市民病院創立50周年記念の会 閉会挨拶

副院長
細羽 俊男



私は、本院外科勤務14年で副院長をさせていただいている細羽と申します。

本日は、井原市民病院創立50周年の講演会へ井原市長様、井原医師会長様、近隣の先生方、介護・福祉関係の方々や職員の参列をいただき、ありがとうございました。

また講演の労を取っていただいた糸島先生にはご多忙中にもかかわらず、記念式にふさわしい「これからの地域医療について」との演題を選んで口演いただき、私どもが直面している難問の「医師確保、病院の特徴、地域の医療・介護」のこれからの予想をデータに

分析いただき、今後の井笠地域の方向性を御教示いただきありがとうございました。

本院は当地に昭和38年に沼であった所へ自衛隊の協力で山を切り開いて統合井原中学が出来て、その土地で埋め立て井原市民病院が設立され、現在はその場所に新病院を新築され、地域の中核病院として役割を果たしてまいりました。

現在、5代目院長として4年前より山田院長が赴任され病院のミッションは「地域の住民の尊厳を守り、命を守り、健康増進を支援する」で、ビジョンは「いつでも安心してかかれる身近で愛される急性期病院」とされ成果をあげ、現在は、健診部門にも力をいれ早期発見・早期治療と在宅訪問看護にも力をいれています。

続いて、本年度は患者様や地域の医療機関から信頼される病院となるよう医療の質の向上の為、チーム医療の推進をはかっていますので、地域の皆様の御支援と御愛顧を宜しくお願いします。

最後に、本日まで出席いただいた皆様のご健康とご活躍と病院の発展を祈願して閉会とさせていただきます。有難うございました。

写真で見る井原市民病院の歴史



花壇と玄関（平成 14 年頃）



昭和 診療風景



医事受付（平成 13 年頃）



手術室（平成 10 年頃）

井原市立井原市民病院沿革

| | | |
|--------------|--------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|
| 昭和 37 年 9 月 | 開設許可（平成 37 年 9 月 1 日） | 病院ボランティア「ひまわり」誕生 |
| 昭和 38 年 5 月 | 井原市立井原市民病院開院（平成 38 年 5 月 4 日） 一般病床 100 床、 内科、外科、小児科、産婦人科、整形外科、耳鼻いん こう科、放射線科 | 平成 15 年 9 月 午後診療の休診・土曜日休診の実施 |
| 昭和 38 年 7 月 | 地方公営企業法適用 | 平成 15 年 10 月 (財)日本医療機能評価機構による「病院機能評価」受審 |
| 昭和 38 年 10 月 | 労災保険指定医療機関の指定 | 平成 16 年 2 月 病院新築工事完成 |
| 昭和 40 年 3 月 | 救急告示病院指定 | 一般病床 120 床 療養病棟 60 床（医型 36 床、介護型 24 床） |
| 昭和 41 年 1 月 | 一般病床 80 床増床（180 床となる） | 平成 16 年 3 月 井笠地域リハビリテーション広域支援センター認定 |
| 昭和 45 年 5 月 | 第 1 種助産施設に指定 | 平成 16 年 7 月 オーダリングシステム導入（一次）（検査、処方、予約、 食事） |
| 昭和 46 年 | 理学診療科開設 | 平成 17 年 5 月 (財)日本医療機能評価機構による「病院機能評価 複合 病院（一般、療養）」認定 |
| 昭和 52 年 1 月 | 眼科開設 | 平成 18 年 2 月 井原市病院事業経営基盤強化基本計画策定 |
| 昭和 58 年 1 月 | 耳鼻咽喉科開設 | 平成 18 年 3 月 オーダリングシステム導入（二次）（画像、汎用、注射、 病名、リハビリ） |
| 昭和 62 年 3 月 | CT ス装置導入、人間ドック開始 | 平成 19 年 4 月 放射線遠隔画像診断事業開始 |
| 昭和 63 年 3 月 | 救急処置室新設 | 平成 19 年 11 月 産婦人科医師 2 名のうち 1 名の退職に伴い産科休診 |
| 平成 5 年 3 月 | MR I 装置導入 | 平成 20 年 3 月 CT 装置更新 |
| 平成 8 年 1 月 | 泌尿器科開設（全 10 科となる） | 平成 20 年 10 月 電子カルテ稼動 |
| 平成 11 年 10 月 | ヘリカル CT 導入 | 平成 21 年 3 月 井原市病院事業改革プラン策定 |
| 平成 12 年 3 月 | 病院新築設計着手 | 平成 21 年 4 月 介護療養型医療施設 24 床を医療療養型施設へ転換 |
| 平成 12 年 4 月 | 療養病棟開設（14 床） | 平成 22 年 1 月 院内保育所（まいづる園）開園 |
| 平成 12 年 6 月 | 療養病床 14 床増設（合計 28 床 介護 24 床 医療 4 床） | 平成 22 年 4 月 皮膚科開設 |
| 平成 13 年 2 月 | 院外処方実施（外科、小児科、産婦人科） | 平成 22 年 5 月 (財)日本医療機能評価機構による「審査体制区分 2 （Ver.6.0）」認定 |
| 平成 13 年 3 月 | 病院新築 1 期工事開始 | 平成 22 年 12 月 循環器内科開設 |
| 平成 13 年 4 月 | 院外処方実施（全科） | 平成 23 年 1 月 心臓リハビリテーションを開始 |
| 平成 14 年 4 月 | 公営企業法全面適用 事業管理者を設置 | 平成 23 年 6 月 麻酔科開設 |
| 平成 14 年 8 月 | 病院新築 1 期工事完成（病棟部門） | 平成 24 年 6 月 訪問看護事業開始（訪問看護センター「まいづる」） 365 日リハビリテーション開始 |
| 平成 14 年 9 月 | 一般病床 120 床、療養病棟 60 床で届出 | 平成 25 年 3 月 脳神経外科開設 |
| 平成 15 年 7 月 | 病院新築 2 期工事完成（外来部門） MR I 装置更新 結石破碎透視装置の導入 | |



新生児室（平成 8 年頃）



リハビリテーション科（平成 13 年頃）



未熟児保育器（平成 5 年頃）



昭和 受付風景

井原市立井原市民病院 創立 50 周年を迎えて

医療技術部リハビリテーション科長 中島 均

開院から 50 年という節目の年を迎えました。リハビリテーション科も昭和 46 年に開設され、1 人の理学療法士で開始しました。現在では総勢 17 名という充実した人員配置となっております。今後もさらに市民の方々に満足されるようリハビリテーションを提供できるようにスタッフ全員、専門性を高めて行きたいと思っております。

医事係長 吉田 真介

井原市民病院創立 50 周年にあたり、病院の窓口である医事課として、今まで以上に市民の皆様へ愛される病院を目指し、医事スタッフ一同おもてなしの心を再確認し、気軽にお声をかけて頂けるよう和やかな雰囲気を作りながら患者様に接していきたいと思っております。

訪問看護センター 師長 西江加代子

井原市民病院創立 50 周年を迎え、今まで井原市民病院が果たしてきた役割をこれから先も、継続していかなければならないと感じています。訪問看護センターも開設から無事に 1 年を迎える事ができました。利用者の方が、私達の訪問を待っておられ「来てもらってありがとう」の言葉が私達の励みになっています。

少子高齢化の時代、在宅療養への移行が加速していく中、私達が提供できる看護に磨きをかけて利用者の方に喜んでもらえるように頑張っていきたいと思っております。

地域医療連携室 渡邊 栄子

地域住民の皆様そして井原医師会の先生方をはじめ、多くの医療・介護の関係者の皆さまの多大なご協力とご理解を頂きながら、当院が創立 50 周年を迎えることができました。

地域医療連携室は、患者様と医療・介護をつないでいく大きな役割を担っていると思っております。地域住民の皆様が安心して医療を受けられる病院を目指してスタッフ一丸となって頑張っていきたいと思っております。



健康まつり

第3回



11月17日



会場

井原市民病院

時間

10時～14時(雨天決行)

専門スタッフによる 体験コーナー

- *薬剤師のすべすべ美肌ローションづくり(大人対象)
- *おかしを薬の分包機で分けてみよう(こども対象)
- *箱の中身はなんじゃろかあ
 - ★レントゲンで見てみよう!
- *血圧脈波測定(動脈硬化検査)
 - ★推定血管年齢が分かります!
- *呼吸機能検査
 - ★肺活量・肺年齢が分かります!
- *呼吸リハビリ
 - ★呼吸体操1・2・3
- *栄養士によるあるあるクイズ



記念講演



【演題】

『特定健診の結果を
日常生活に生かしましょう』
～生活習慣病の克服を目指して～

【講師】

黒瀬 康平事業管理実践者

バルーンアート もやってるよ



ナースに変身



思い出に写真を持って帰ってね

普段は入れない
病院の色々な場所も見学できます♪

- ・ロビーコンサート
 - ・バザーやゲーム など
- 楽しいイベント盛りだくさん

皆様、是非お越しください

※イベント内容につきましては、変更の場合もあります。

編集後記

創立 50 周年を無事迎える事が出来ました事を、病院に携わって来られた諸先輩方に感謝しご報告させて頂きたいと思
います。

記念式は派手ではありませんが職員一人ひとりの心のこもったお出迎えが出来たと思います。さらには地域の皆様と一緒に「地域と共に歩む、より愛される病院を目指して」チーム医療に取り組んでいきたいと思
います。 平井千枝子